

# 彫刻

応募点数	13点	招待作品	5点
入賞点数	6点	展示点数	18点
入選点数	7点	◎は移動展出品作品	

(総評) 本年は応募数が13点で、例年よりかなり少なかったのは、やはりコロナ禍の影響があったのかもしれませんが。しかし、継続して県展に出品されている若い方もあり、高齢ながら意欲盛んな方も見受けられ、その努力や意欲に元気づけられます。

審査に当たっては、発想の独自性、技術や処理の独自性の練度、主題を明確にする彫刻的な構成力、総体と部分の関係、モチーフの観察から生まれる有効な省略や単純化、深さを求める着色等に目を向けて総合的に見てまいりました。

鑑賞に当たっては、さらにその作品が時代との結び目を作っているかどうか、見る人が受け止め考える余地を残しているかどうか、作者の心模様を投影しているかどうかなどもキーワードになるのではないかと思います。(文責 山岡 弘迪)

金賞 ◎移

## ときめぐり

たちばな 航 (江津市)

構想から制作と野焼き、組み立てへの一連の綿密な作業によって、植物と骨とが組み合わさっているイメージで制作された作品です。粘土の野焼き特有の、野趣に富んだ色むらが、空間配置の妙と併せて効果的に働いています。(文責 山岡 弘迪)

銀賞 ◎移

## やくどう 躍動

あごう かおる 吾郷 薫 (大田市)

カブラや小石を巻き込んだ椎の木に接し、大きな生命力に感動を覚えた作者は、その感動を螺旋形に彫った形態に託して表現したとのこと。地上に生き抜く木彫の小動物を登場させ、自然界の営みをも表現された労作です。(文責 山岡 弘迪)

銀賞 ◎移

## やき き おく 遣って来た記憶

すず き ゆう し 鈴木 祐司 (益田市)

コロナ禍に困惑した今年、中世に流行したペストの災厄の話も併せ、いろいろな感染症の具現化の形態から着想し創造したとのこと。

作者のガラスと南洋材の異質な物を組み合わせた表現は、技能的にも高いものです。走りくる奇異な人物像は、あたり一面から恐れおののく厄災を蹴散らすようにも見えたり、また一方でその姿態に引き寄せられたりする労作です。(文責 山岡 弘迪)

銅賞 ③

## Family '20

尾 添

昇 (出雲市)

今年はコロナ禍で母子愛をより深く感じ、制作されたそうです。

形態の単純化を進め、内から発する彫刻的な量感がしっかりと感じられます。見る角度によりいろいろな表情を楽しめ、つつい時間のたつのを忘れてしまいそうになる作品です。  
(文責 山岡 弘迪)

銅賞 ③

## 想い

佐々木

孝 (浜田市)

疫病の退散を心より願い、「鍾馗」の塑像制作に挑まれました。

大きさや姿態、表情等に工夫や修正を重ね、付属品の制作にも塑像としての一体性を求めて、様々な材料を活用して仕上げられました。旺盛な制作意欲に敬意を表します。  
(文責 山岡 弘迪)

銅賞 ③

## 汐風

原

増 男 (出雲市)

粘土による人体の彫塑表現に関心を持ち続けられた、作者の純朴で真摯な表現をたいへん喜ばしく感じます。量感や動静表現に工夫の跡が見られ、タイトルにも合致しています。  
(文責 山岡 弘迪)

## 入 選

題 名	氏 名	備 考
サーカス	稲 村 守 泰 (松江市)	
海を見る少女	大 畑 敬 (松江市)	
③ 蓑亀	佐々木 柳 子 (江津市)	
おもかげ	佐 藤 信 光 (安来市)	
黒い大根のゆめ	佐 藤 信 光 (安来市)	
半跏思惟像	松 谷 伸 吉 (出雲市)	
きざしわきたつ	立 花 航 (江津市)	

## 招 待

題 名	氏 名	備 考
③ 鶏	井 上 博 (松江市)	
③ 風の星	松 本 健 志 (出雲市)	
③ 鍾馗	田 中 俊 晞 (江津市)	
③ 遙か	山 岡 弘 迪 (出雲市)	
③ フリー	近 田 裕 喜 (安来市)	